

研究タイトル：

1960年代～80年代筒井康隆作品研究



氏名： 松山 哲士／MATSUYAMA Satoshi E-mail： mtymsts@fukui-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 日本近代文学会、昭和文学会、阪神近代文学会、関西大学国文学会

キーワード： 日本近現代文学、日本 SF 文学、筒井康隆文学

 技術相談
 提供可能技術：

- ・同時代コンテキストを考慮した文学作品の精読の方法
- ・新聞、雑誌の記事や、研究論文など、データベースを用いた資料の調査方法
- ・著書目録や作家の事典項目の作成方法

研究内容：

【筒井康隆とは】

筒井康隆(1934 年生まれ)は、星新一や小松左京と並び、日本の SF(サイエンス・フィクション)を切り開いた「SF 第一世代」と呼ばれる作家です。ナンセンスなユーモアやパロディを得意とし、初期には突飛な SF 作品を多く手がけました。また、1970 年代以降は、物語の枠組みを意識的に崩す「メタフィクション」と呼ばれる手法を使い、SF と純文学の垣根を越える実験的な作品を発表してきました。

その創作活動は高く評価され、多くの文学賞を受賞しています。代表作には『虚人たち』(泉鏡花文学賞)、『夢の木坂分岐点』(谷崎潤一郎賞)、『ヨッパ谷への降下』(川端康成文学賞)などがあり、国際的にもフランス芸術文化勲章を受章するなど、現代日本文学を代表する作家の一人です。

【研究視点①：「疑似イベント」と筒井文学】

アメリカの歴史家ダニエル・J・ブーアスティンは、メディアによって作られた「見せかけの出来事＝疑似イベント」が社会にあふれていると指摘しました。筒井はこの思想に影響を受け、マスコミによる情報操作や過剰報道を風刺する SF 作品を数多く生み出しました。たとえば、『東海道戦争』『48 億の妄想』『ベトナム観光公社』などでは、報道が人々を戦争へと扇動する様子が描かれています。

私はこれらの作品について、当時の新聞や雑誌と照らし合わせながら分析を行い、筒井が SF という架空の世界を通じて、現実社会を鋭く風刺していることを明らかにしました。

【研究視点②：「内宇宙」と筒井文学】

「内宇宙(インナースペース)」とは、イギリスの作家 J・G・バラードが提唱した考え方で、人間の内面や無意識の世界を舞台とする SF の新しい方向性です。筒井はこの思想をいち早く日本に紹介し、自身の作品にも取り入れました。

『脱走と追跡のサンバ』『虚人たち』『夢の木坂分岐点』などの作品では、登場人物の精神世界が精緻に描かれています。これらの作品は、その奇抜な表現技法が注目されてきましたが、私は物語の内容そのものにも注目し、「主人公の内面世界を描く」ことの意味を明らかにしました。とくに『夢の木坂分岐点』についての私の論文は、学術書でも引用されるなど、学術的な影響を与えています。